

松戸市交通ビッグデータ見える化協議会【第2回】 議事録（要旨）

◎日 時：令和5年3月8日（水）14:00～15:00

◎場 所：衛生会館 大会議室

議事内容（○：質問・意見、→：回答）

<説明資料について>

○渋滞箇所が多い印象だが、実感と合っているか。基準が甘いのか、松戸市の交通状況が厳しいのか。

→代表の交差点は市で認識している渋滞箇所とも概ね合っており、基準が甘いとは考えていない。ただし、今後要因分析をした上で精査する。

→参考に千葉県移動性向上プロジェクト委員会での主要渋滞箇所の定義は、平均旅行速度が平日昼間12時間20km/h未満のほか、ピーク時流入は1方向あれば該当である。横並びで見ると松戸市の基準は決して緩くないと考える。

○指標が緩くないとなると、松戸市が厳しい道路状況にある事を再認識させられる。

○今後どのように進めるのか。

→交通円滑化、交通安全ともに要因分析を行い、来年度上半期までに分析結果から対策箇所を協議会で諮りたい。

○要因分析は対策候補箇所の全てで実施するのか。

→まずは代表箇所から要因分析を行い、対策方針を検討する。

○要因分析とはどのようなものか。

→渋滞は、方向別交通量や渋滞長、渋滞要因（右折車、先詰まり等）、交差点需要率等。交通安全は、1つ1つの事故発生地点、事故類型、事故の進行方向等を考えている。

○交通安全の地区の範囲はどのように決めているか。

→ETC2.0の走行台数が多く抜け道利用の可能性がある場所で地元から抜け道対策の要望がある場所について、幹線道路に囲まれたエリアで設定している。幹線道路の両側で見られる場合は併せて括っている。要因を分析する中でエリアの大きさは変わると考えている。

○分析により対象地区の範囲が変わることは資料へ表記したほうが良い。

○事故対策は事故類型により対策や考え方が変わるため、今後詳細に事故の内容を確認する必要がある。車両対車両の事故は渋滞対策で事故対策の効果があるかもしれない。

○今後の進め方において、カルテの位置付けを明確にして、客観性を持たせた方がいい。

<その他>

・来年度は対策部会を設置予定。具体的な対策は部会で検討し、検討結果を協議会で報告する。

以上